

令和6年度 第2回 国有林材供給調整検討委員会

< 次 第 >

日時：令和6年10月3日（木）13：30 - 15：30

場所：中部森林管理局 名古屋事務所

1 開会

2 森林整備部長あいさつ

3 議事

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4 閉会

令和6年度「国有林材供給調整検討委員会」委員等名簿

検討委員会 委員

区 分	所 属	氏 名
学識経験者	信州大学名誉教授	植木達人
関係行政機関の職員	富山県農林水産部森林政策課 主幹	平野雅治
関係行政機関の職員	長野県林務部信州の木活用課 県産材利用推進室長	小林健吾
関係行政機関の職員	岐阜県林政部県産材流通課長	垂見光貴
関係行政機関の職員	愛知県農林基盤局林務部林政課 あいちの木活用推進室長	大田圭一郎
川上・川中	長野県森林組合連合会 業務課長	田口連蔵
川上・川中	岐阜県森林組合連合会 木材流通事業本部長	岩木克也
川上	平澤林産有限公司 代表取締役	平澤照雄
川上・川下	株式会社勝野木材 代表取締役社長	勝野智明
川中・川下	株式会社東海木材相互市場 代表取締役会長	鈴木和雄
川下	ウッドリンク株式会社 代表取締役副会長	原野哲雄

中部森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	村上卓也
資源活用課長	上田喜幸
企画官（木材需給対策）	芳沢真一
企画官（間伐推進）	下平明博
企画官（長期安定供給）	古畑輝雄

官 職	氏 名
上席技術指導官（木材供給）	谷澤恭子
供給計画係長	田中真二
素材供給係長	倉石明典
供給計画係	菊地真以

令和6年度第2回国有林材供給調整検討委員会 (概要)

1. 開催日時

令和6年10月3日(木) 13時30分～15時30分

2. 開催場所

中部森林管理局 名古屋事務所

3. 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4. 検討結果

全国的な木材需要動向をみると、新設住宅着工戸数は概ね横ばいでの推移となっており、先行き動向についても、当面、横ばいで推移していくものとみられている。プレカット工場の受注状況は、やや改善状況ではあるが実需回復まで向かう状況ではなく、稼働率についても低調な動きとなっている。また、国産材製品は全国的に荷動きが振るわず、底ばい状態で推移している。

一方、中部森林管理局管内の原木価格に目を向けると、今夏は虫害等による材の劣化が激しく、価格の低下や出材の低下につながっているとの声もあるが、一部地域でヒノキ価格の下落がみられるものの概ね横ばいでの推移となっており、ウッドショック以前の価格より若干高値で踏みとどまっている。

こうした状況を踏まえ中部森林管理局では、引き続き本年度計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材供給を実施することにより、管内の市況の安定化を図ることが重要であり、当面、供給調整の必要性はないものと考えられる。

なお、本年度講じた予防的な措置の効果や、地域における木材需給動向等を注視しながら、今後も供給調整に係る議論を継続する必要がある。

5. 委員意見等

- 他の地域では、需給のバランスが崩れ輸出に走っている。全国レベルでの流通となっているため、業界全体の中で調整を考える必要がある。

- 丸太の売り先は大体決まっているため、価格はあまり変動しない。数量を出し過ぎると溢れてしまうため、量を均一化することが重要。製品生産事業は天候に左右される仕事であるため、早期発注・短期間に契約ができるシステム作りが必要。最近では契約期間が長くなっていく傾向がある。事業体としては事務的なことに時間をとられたくない。
- ウッドショックの時に見通しがきかなくなり、7月後半から材が出なかった。その時、国有林がベースを作って安定供給しており助かった。価格維持のための需給バランスの調整については検討が必要。
- 国有林は5年の計画の中で計画的に販売するものであり、これは民間には真似できない。相場のいい時も悪い時もある程度出材があるため、製材も成り立つという側面がある。

地域・樹種・立場により異なるため判断が難しいが、川下の立場として現在はどうぞんぞん出材してほしい。

供給過多になると価格は下がるが、どんなことがあっても安定供給は必要。月単位で安定供給していただけるとありがたい。
- 川下の立場からすると需要に沿った量を、責任をもって安定的に供給してほしい。アップダウンせず平均した量を確実に供給し、価格については需給バランスによるものであるが、自分たちの需要量はいつでも同じであるため、必要量を市況価格に基づいて購入するという考えでいる。

製材業者として何をすれば山側が運びやすくなるか、量を増やせるかを考えながら事業を行っている。
- 近年、良い材が中国に輸出されてしまっているのを見かける。仕分けをしっかりとし対応してほしい。欲しいものが海外へ流れてしまい残念。
- 冬に向け丸太をストックしていく必要があり、しっかりと安定供給してほしい。

民有林は需要先の減産体制の影響か県等の補助事業の影響か出材が減少している。民地からの出材量が極端に少なく、丸太が不足している状況。管内のバランスを調整している状況であるが、冬の需要に向けたストックができていない。
- 山側に寄り添っていきたい立場から話をすると、山側は装備にお金がかかることに加え、人件費が高くなってきている。若い人を食わせるためにはきちんと仕事をやってもらうことが必要で、出材を減らすわけにはいかない。